

第7回基本政策部会 議事要旨

1. 日時

令和2年2月17日（月） 11:00～13:00

2. 場所

内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

中須賀部会長、松井部会長代理、青木委員、石田委員、片岡委員、栗原委員、白坂委員、角南委員、常田委員

(2) 事務局

宇宙開発戦略推進事務局 松尾事務局長、行松審議官、吉田参事官、星野参事官、中里参事官、森参事官、鈴木参事官、滝澤参事官

(3) オブザーバ

和泉内閣総理大臣補佐官、今井内閣府大臣政務官、葛西宇宙政策委員長、遠藤宇宙政策委員、折木宇宙政策委員、後藤宇宙政策委員、山崎宇宙政策委員、山川 JAXA 理事長

(4) 関係府省等

内閣官房 国家安全保障局 富川企画官、内閣衛星情報センター 今西総務課長、内閣府 総合海洋政策推進事務局 森下参事官、総務省 森下宇宙通信政策課長、外務省 山地宇宙・海洋安全保障政策室長、文部科学省 藤吉宇宙開発利用課長、農林水産省 松本技術政策室長、経済産業省 浅井宇宙産業室長、国土交通省 伊崎技術開発推進室長、環境省 吉川脱炭素化イノベーション研究調査室長、防衛省松本戦略企画課長

4. 議事要旨（○：質問・意見等 ●：回答）

(1) 次期宇宙基本計画の骨子（案）について

資料1に基づき、「次期宇宙基本計画の骨子（案）」について事務局から説明があり、委員より以下のような意見があった。

○今後、宇宙政策は単独ではなく、安全保障、イノベーション、スマートシティなど他分野の政策と密接に連携していくことが必要。

○民間活力の活用について、どの分野でこういった活用をしていくのか、官民で共通認識を持った上で取組んでいく必要がある。

○民の活用といった場合に、JAXA のプロジェクトだけでなく、関係省庁もデータの利用を含めて民を利用していく、ということも重要。

○技術を実証していくことだけでなく、社会に「実装」していくことが重要。技術だけでなく、製造・開発プロセスのデジタル化への対応策をしっかりと検討する必要がある。

- 宇宙を経済成長のドライバーにする、という点について、宇宙が他産業の成長の基盤となって、「持続的な経済成長の基盤」としての役割をしっかりと明記すべき。
- 宇宙科学の役割について、知の創造にとどまらず、国際的なプレゼンス向上などのソフトパワーとしての位置づけをもっとしっかりと明記すべき。
- 今後、将来に向けて日本の相対的な国力の低下が危ぶまれる中で、宇宙を国力向上への起爆剤にしておくことが重要。その観点から、かつてのアメリカのように、日本人宇宙飛行士の月面着陸もシンボリックな取組として目指していくべき。
- 徹底的な利用者目線に立ったプロジェクトを推進することが重要であるが、そのためには、利用者から応分の負担をしっかりと求めることが重要である。
- 民の活力を活用していく方向性を出していることはよいが、安全保障など、引き続き国がやるべきことは、財源の確保も含めてしっかりと国が行っていくという姿勢もしっかり打ち出すべき。
- 今後の宇宙政策は、試行錯誤を伴う挑戦的な取組が必要である点をしっかりと強調すべき。

以上